



はつらつ 通信



Vol. 132
2015.9.1

●発行 医療法人北志会 札幌ライラック病院
●編集 はつらつ通信局

入院透析治療、スタート間近

来るべき「2025年問題」に備えて

ここ数年、医療・介護の分野で大きな話題となってきたのが、団塊の世代全員が75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」です。後期高齢者1人あたりの年間医療費は国民平均の約3倍。要介護認定率の高い年代でもあり、医療費も介護給付も増加の見込みです。

「3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上」という時代の到来に備え、医療制度は今大きく変わろうとしています。病床を持つ各医療機関が病棟機能を都道府県に自主的に報告する病床機能報告制度が昨年からはじめ、今年はこの報告結果をもとに現状を把握。人口の推移や構成変化を考えながら、都道府県ごとに必要な病床数を管理し医療機関の連携を強化する地域医療構想が策定されます。

10月から入院患者さまの透析室を開設

地域医療構想が促すのは、これまでの「病院完結型」ではない「地域完結型」の医療です。10年後を見すえ、障害者病床と療養病床を持つ札幌ライラック病院は、地域において自らが担うべき役割を検討した結果、長期入院される人工透析の患者さまの受け入れを決定。今年10月に透析室を開設をさせます。

今号では、職員4名が座談会のかたちで、開設までの経緯と準備のようすをお話します。





患者さまのニーズ、時代背景、リソースのすべてが導いた透析室開設 地域で必要とされる病院機能を求めて



志田 勇人 医局長

間約1万人ベースで増えていきましたが、ここ10年くらいは増加が鈍ってきていると聞きました。

本庄 ええ。ただ、糖尿病を原疾患とする透析患者さまの割合は増加し続けているんですよ。

森永 院長は糖尿病の専門医ですから、その意味でも担える役割があるかもしれないですね。人工呼吸器対応ベッドがあったり、P.T.O.T・S.T※1とリハスタッフがそろっている点も当院の特色。透析患者さまやご家族のために、それを生かしていきたいですね。

志田 関連病院のひとつに宮の森記念病院があり、透析指導医の松橋（尚生）院長の指導・協力が得られる点も大きいですね。

透析患者さまのケアの経験がある看護師2名採用し、10月には日本アフェレンス学会認定技士※3のMEも着任の予定です。

志田 6月から宮の森記念病院で血管処置の見学やカンファレンス参加

修を実施中。即戦力として、



森永 万佐夫 事務部長

安心と信頼を得るため 開設に向け万全の準備

本庄 皆さん開設準備で忙しいことと思いますが、進捗はどうですか？

三上 今、人工透析装置の操作経験があるME※2と協力して、師長たちとマニュアルを作成しています。受け入れの主体となる3病棟ではMEとの研修を実施中。



三上 初美 看護部長

など研修を受けているほか、今月と来月、新井（雄一郎）先生と私が市立病院で学会の定めた実習に参加します。

森永 工事は9月中旬に着工します。翌10月には3階に10床の透析室が完成する予定です。

本庄 通常業務に開設準備が加わり大変と思いますが、これも新しいステージに進むための生みの苦労。全員で協力していきましょう。

（8月18日（火）、当院3階会議室にて）



本庄 恭補 院長

一定の役割を果たした 人工呼吸器特化の病棟

森永万佐夫事務部長（以下、森永）当院は平成19年に介護保険病床を返上して、人工呼吸器装着の入院患者さまの受け入れをスタートさせました。実はそのころから、人工透析が必要な入院患者さまの受け入れも視野に入れていました。

現在、当院の人工呼吸器装着の患者さまの人数は、全国で初めてポスTICU人工呼吸センターを開設した平成成会病院さんに次いで、札幌で2番目ですが、当時に比べ今は受け入れる病院がずいぶん増えました。

三上初美看護部長（以下、三上）地方から当院に入院されていた患者

さまが、ご家族の住む地元へ転院される例もありましたね。

森永 その意味では、ここまでの間に一定の役割を果たせたと考えています。透析室の開設は、次の段階へ進むよいタイミングといえます。

自身の特色をふまえて 次の段階へ進む好機

本庄恭補院長（以下、本庄）時代性というタイミングもありましたね。大きなところでは「2025年問題」。地域医療構想の下では、それぞれの医療機関が地域の中で果たすべき役割を自問自答することになります。札幌に住む団塊ジュニアを頼って地方から団塊世代が移住してくることも考えられ、人口構成が変化する中での役割の模索は悩ましい問題です。

志田勇人医局長（以下、志田）人工透析を受けている患者さまも高齢化してきますからね。

森永 これまで透析患者数は年



医療法人北志会

基本理念
私たちは、地域における病院使命を果たすうえで、「安心・信頼・満足」を目指し、より良い医療サービス実践のため日々研鑽します。

基本方針

- 患者様の生命を尊重し、人間としての尊厳及び権利を尊重します。
- 専門の医療を提供し、安心して療養に専念できる環境を整備します。
- 職員は、責任と誇りを持ち、日々創意工夫し、専門職としての使命を果たします。
- 在宅ケアと医療が連携し、チームとして地域住民の健康・保健・福祉に貢献します。

札幌ライラック病院を受診される皆様にご協力いただきたいこと

- 心身の健康に関する情報について担当者にお伝えください。
- 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問してください。
- 治療やケアの方針を決める時には、ご遠慮なく医療者と話し合ってください。
- 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加してください。
- 院内では常識的な社会人として行動して下さるようお願いいたします。
- 札幌ライラック病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
- 札幌ライラック病院では、各階に意見箱を設置しています。ご意見やご希望がありましたら、ご遠慮なくご利用ください。

高校生がリハビリやデイケアを現場で体験 「知らなかった!」学びの場に

医療分野の職業体験 高校生6名が来院

去る8月3日(月)、高校生の職業体験として、医療分野を志望している札幌北陵高校2年生6名が当院を訪れました。当院では地域貢献の一環として学生の見学や研修を受け入れており、高校生の職業体験もそのひとつ。毎年学生たちにさまざまな医療職が働く実際の医療現場を見ても



デイケアのご利用者さまとコミュニケーション

らい、また、病棟の患者さまやデイケアのご利用者さまとふれあつてもらうことで医療職の原点を感じる機会をつくっています。

今回は、院内見学のほか、リハビリ室では理学療法士の解説を聞きながら車いすなどを体験し、デイケアルームではご利用者さまと同じテーブルに座って一緒にレクリエーションに参加してもらいました。

学生の視野を広げた ミニレクチャー

理学療法士の佐藤純吾リハビリテーション科長によるリハビリのミニレクチャーは、高校生たちにとって発見の連続。「ねんざや腰痛でリハビリを受けた何人かの学生さんは、マッサージなどがリハビリのイメージ。食事や会話の機能低下に対するリハビリがあることにびっくりしていました」と佐藤科長。リハビリに対するイメージの偏りに自ら気付くきっかけとなったようです。



実際に乗って車いすを体験中



また、車いすや杖を使って高齢者の移動を疑似体験。介助することはあっても、介助される側として乗る経験は少なく、介助の仕方によっては「意外とおつかない!」という感想が聞かれました。午前9時から3時間ほど、現場の雰囲気を感じてもらった職業体験。短い時間ではありましたが、高校生の進路選択に役立つことを、迎え入れた職員一同で願っています。

札幌ライラック病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重いたします。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名、検査結果、受ける処置やケアの内容について十分に説明が受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意思が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援します。
5. 身体的なことだけでなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育を受けることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

内科、消化器内科、整形外科、神経内科、内視鏡内科、糖尿病・代謝内科、麻酔科、リハビリテーション科

診療時間

平日 9:00~12:30 13:30~17:00
土曜 9:00~12:00 午後休診
※但し急患の方は上記に限らず随時受付いたします。

面会時間 平日 14:00~20:00
土日祝 12:00~20:00

ホームページ <http://www.lilac.or.jp/>



医療法人 北志会

札幌ライラック病院 札幌市豊平区豊平6条8丁目2番18号

TEL(011)812-8822

デイケアの ボランティアさん 募集中!

こんな活動をしてみませんか?

- ①お茶出しや食事の配膳の手伝い、お話し相手
- ②書道や絵手紙など趣味活動の講師役、特技の発表

活動時間 ①9:30~12:30 ②14:00~15:00

お問い合わせはデイケア・中田まで